

DXに取り組む
「第一歩」を応援して
います

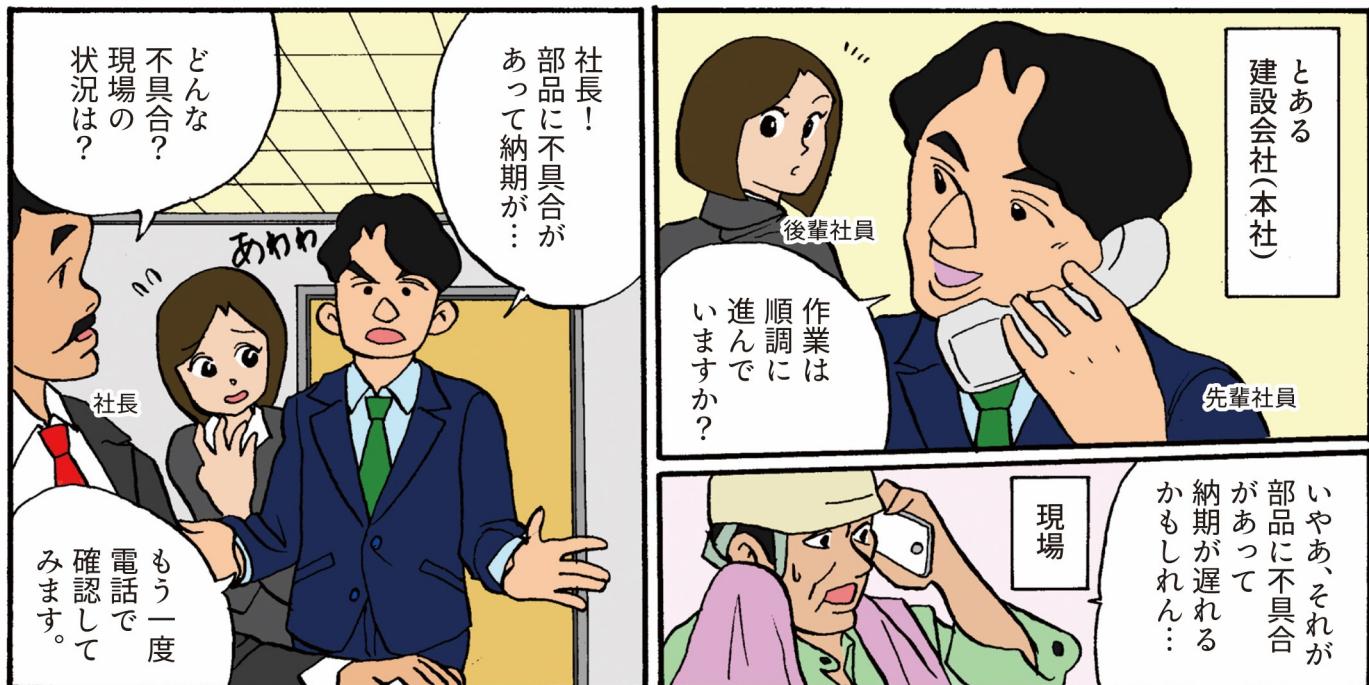
みんなの想いを実現する あたかいDX

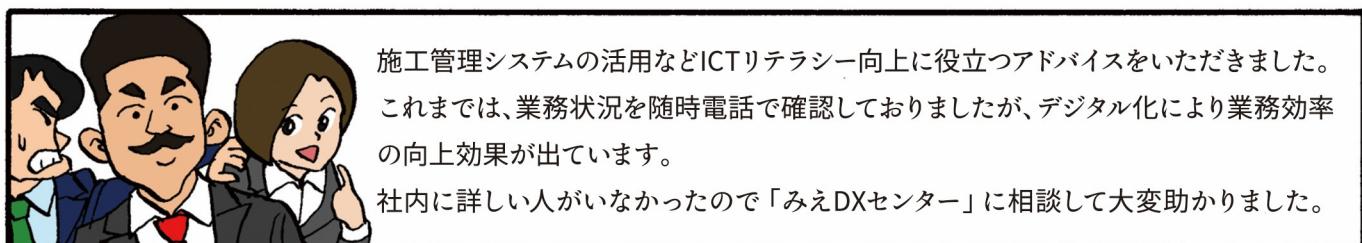
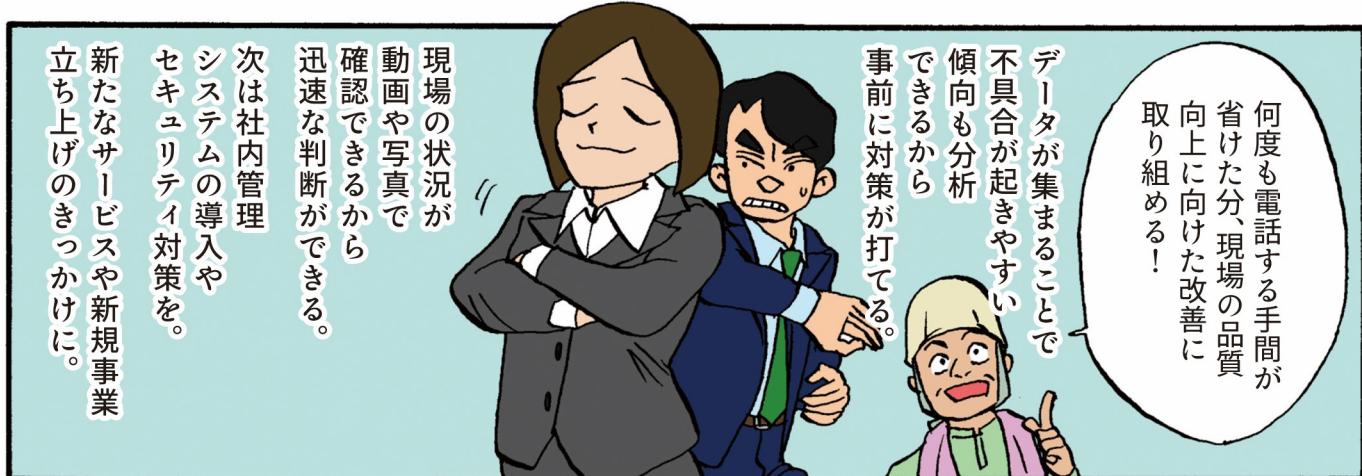
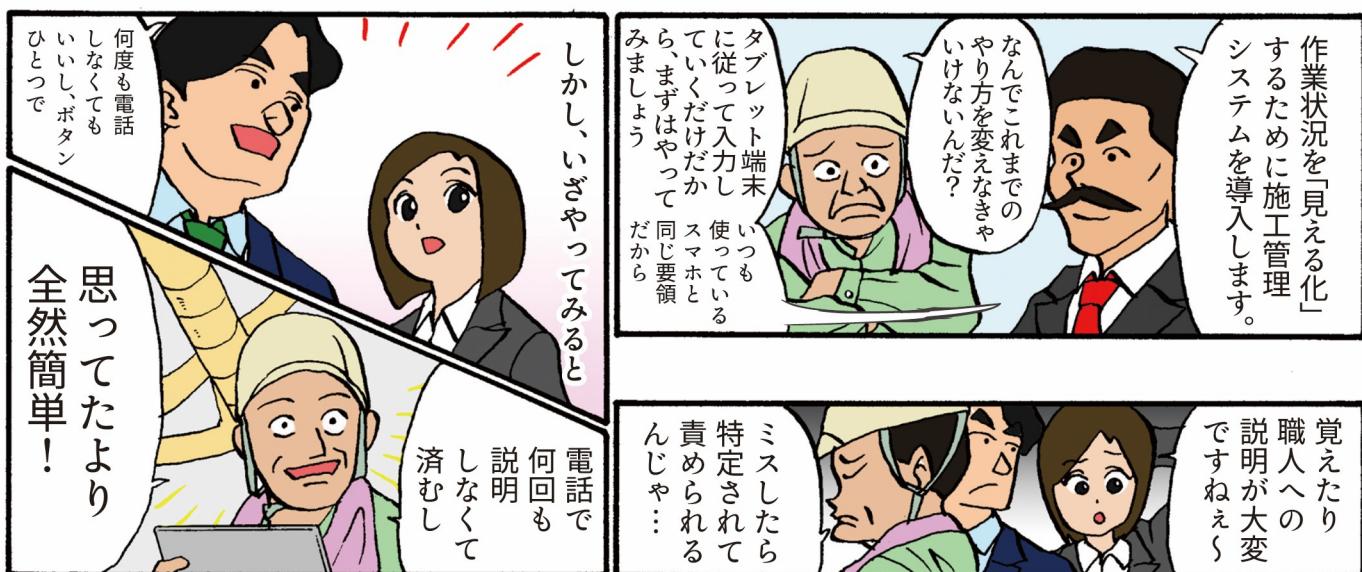
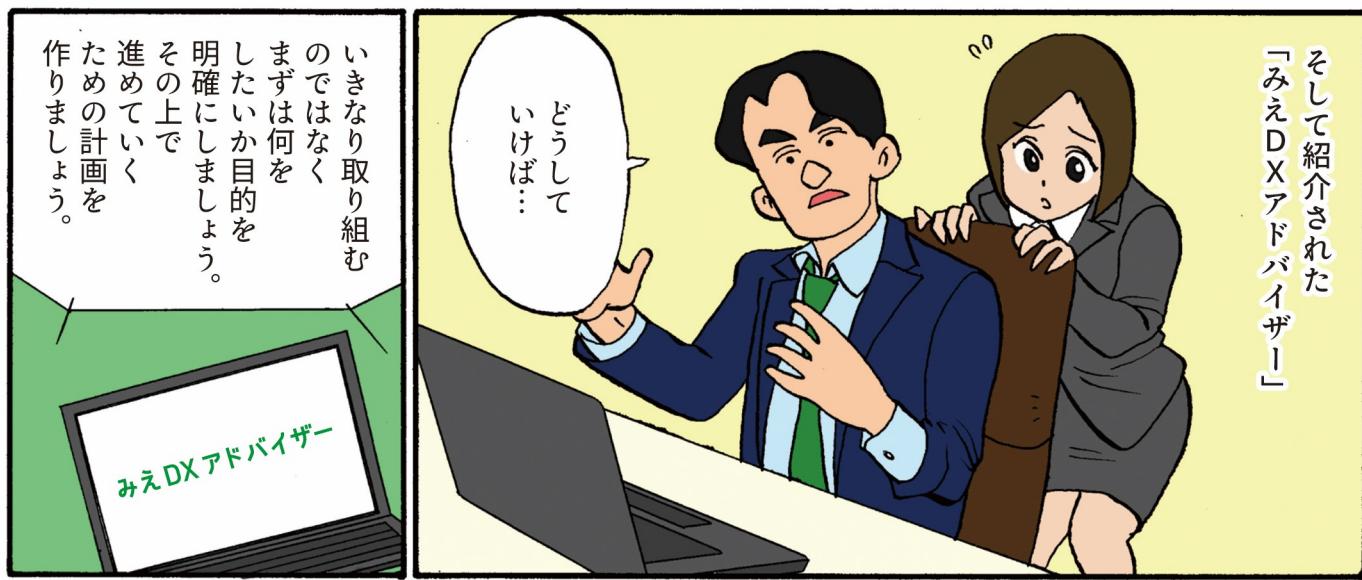
県内で取り組まれているDX事例紹介



みえ DX センター

業務の進捗状況などを「見える化」したい～みえDXセンターに寄せられた相談事例から～





次ページからは県内で取り組まれているDXの取組事例をご紹介します。

「手書き」の書類をデジタル化

2020年からデジタルツールを取り入れた清泉愛育園。

パソコンが苦手だった園長が「まずはやってみよう」と勇気を出して一歩踏み出した結果、保護者の負担が軽減し、便利さと安心感を提供できるようになっただけでなく、業務の省力化が図られ、職員一人ひとりの業務改善意識の向上にもつながりました。

**朝の忙しい時間も
家事に集中できる**

**親も保育士も、
「子どもと過ごせる時間」が増加**

＜DXに取り組んだきっかけ＞

数年前、福祉サービス第三者評価（第三者の評価機関が保育園のサービス内容や質を評価する仕組み）を受けた際に、「施設でICT化をしているか」という設問があり、「できたらいいな」と考えていたのですが、パソコンは得意ではなく、年齢のこともあって「できない」と思っていました。その後、たまたま紹介された保育・教育施設向けの業務支援ツールの説明を聞くうちに、ぽんやりと業務の省力化のイメージができたので、「ちょっと試してみようかな」と軽い気持ちで始めたのがきっかけです。

社会福祉法人 清泉福祉会 清泉愛育園 園長 安藤 智子さん

**1 「しなさい」ではなく、
「まかせる」**

職員も「似たような書類に何度も手書きする業務を減らしたい」と思っていたようで、デジタルツールを導入することに、あまり反発はありませんでした。デジタルツールに不慣れな職員もいたので、「しなさい」ではなく、「できたらいいよね」といったポジティブなメッセージで伝え、私は口だしをしないで、大部分を職員にまかせました。操作に不慣れな職員を他の職員がサポートすることで、自然とコミュニケーションも増えました。今では一人一台タブレットを持ち、ほとんどの書類が手書きから入力になったことで時間に余裕が生まれたので、保育士本来の仕事、「子どもと向き合う時間」に向けられています。

**2 負担が減ったと、
喜びの声をいただいています**

手書きの連絡帳をデジタル化したことでの朝の忙しい時間帯の負担が減り、「子どもと過ごせる時間が増えた」と喜びの声をいただいています。欠席や遅刻などのやり取りにもデジタルツールを使っています。時間帯を問わず、気兼ねなく連絡いただけるので、とても手間が省けていると思います。時間に余裕ができたことで、お互いにコミュニケーションを取ることも増え、保護者と園とのつながりもどんどん強くなっていると感じています。



**3 ここで働きたいという方が
増えています**

見学に来られた保護者は「手書きしなくてもいいのですか! ?」と驚かれます。また、職員同士がタブレットを活用しながらコミュニケーションを取る姿を見て、「ここで働きたい!」と、たくさんの保育士が応募してくれます。職員の意識も徐々に変わっており、コストを意識するようになったり、自分の働き方についても考えたりするようになっています。これまででは、週案や月案（毎週・毎月の指導計画）の作成で残業をする職員が多くいましたが、今ではほとんどいなくなりました。

保護者側のメリット

24時間、気兼ねなく園へ連絡ができる安心感

「手書き」の連絡帳がなくなることで、朝の忙しい時間に余裕ができ、**子どもとの時間が増える**

緊急連絡など、**タイムリーに受け取れる**

園側のメリット

職員同士のスムーズな情報共有

「手書き」の書類が減ることで、空いた時間を**子どもとの時間に向けられる**

仕事に対する職員の意識も変わり、**改善意識が向上する**

＜これからDXの取組をされる方へのメッセージ＞

パソコンでメールも送れなかった私が、今ではデジタルツールを使って保護者へのアンケートを作ったりしています。デジタルに興味があっても自分にできるか不安な方も多いと思いますが、まずは勇気をもってやってみることだと思います。まず一歩を踏み出してみてください。

PROFILE



社会福祉法人 清泉福祉会

業種 保育園

所在地 津市新町 1-8-13

鮎田地区生活タイムラインの取組(紀宝町)

災害をきっかけに「鮎田地区生活タイムライン」を作成。

タイムラインに基づき紀宝町から届く避難情報などを区民へ素早く伝達するため、デジタルツールを活用。

普段の生活に防災意識を根付かせるため、防災訓練にもデジタルを組み合わせて、区民の防災への関心向上につなげています。

**アナログとデジタルを組合せた
コミュニケーションで、
次世代に教訓を継承**

< DXに取り組んだきっかけ >

2011年の「紀伊半島大水害」で鮎田地区の約7割が水没しました。

それまでにも自主防災組織はありましたが、机上の議論で現実的ではなく、自分たちのことは自分たちで守るという考え方から地区に合った独自のタイムラインの作成に取り組みました。

鮎田区長 東口 高士さん

**1 スマートフォンの普及で
可能となった「情報の一斉伝達」**

町から配布されたタブレットに避難情報等が届くのですが、高齢者世代のスマートフォン普及率が高まっていることから、スマートフォンのアプリを活用して区民へ避難情報等を一斉に伝達できる仕組みを作りました。また、区民の協力も得て、防犯・防災カメラを地区の10カ所に設置し、災害発生の恐れがあるときは、その映像も配信しています。区民の避難状況や地区の被害状況は、タブレットを通じて町に伝えることができます。



**2 アナログな
コミュニケーションも
組み合わせる**

区民のだれもがデジタルツールを使えるわけではないので、アナログとデジタルを組み合わせることが大切だと思います。区民が集まるイベント等を開催し、遊びの中で防災を学べるような場の提供や、次世代に課題や教訓をつなげていくためにデジタルツールも取り入れた行事を行ななど、日頃からコミュニケーションを取るようにしています。



**3 < 紀宝町の取組 >
町独自の
防災情報共有システムの構築**

紀伊半島大水害の教訓から、住民と行政が情報をデータで共有することが出来る町独自の「防災情報共有システム」を構築しました。これまで雨量や水位等の情報を得るには国や県のホームページを確認する必要がありました。このシステムは紀宝町の情報を収集・一元化し、配信できます。実際に避難するのは住民ですので、スムーズに情報を伝達・避難行動ができるように、地区タイムラインを策定しました。また、全自主防災組織(30組織)にタブレットを配布しており、様々な情報が確認できるだけでなく、町へも情報が伝達できます。

住民側のメリット

地区内での防災情報の共有がスムーズになった

住民同士のコミュニケーションが活発になった

行政側のメリット

避難情報などを素早く伝達できるようになった

各地の避難・被害状況の把握がしやすくなった

自主防災組織との関係性が高まった

< これからDXの取組をされる方へのメッセージ >

身近な人から少しずつデジタルツールへの理解を深めていきました。実際に触れあうアナログな取組にデジタルを組み合わせながら進めていくことが大切だと思います。

PROFILE



ふなだ
紀宝町鮎田地区

業種 自主防災組織

所在地 紀宝町鮎田地区

作業日報のデジタル化からはじめる工場のDX

2017年から設備の稼働状況や生産状況をデータ化し、

製品の動きや流れをデジタル化することで工場の「見える化」に取り組んでいます。

「現場ファースト」のデジタル化によって得られる「データ」を分析することで、大幅な生産性の向上を実現しています。

**“やってみなはれ・DX”
生産性の向上だけでなく、
採用希望者も増加**

＜DXに取り組んだきっかけ＞

「収益性の高い工場を構築する」という企業方針を掲げたことから、工場の「改善活動」に取り組むことになりました。改善するためには「生きた情報」の収集、つまり生産現場のデータをリアルタイムで集計する仕組みが必要と考え、その手段としてデジタルツールの導入を進めました。

三幸電機株式会社 常務取締役 中村 厚郎さん

**1 作業日報は改善のための
ネタが詰まった「重要な帳票」**

作業日報は単なる生産の記録ではなく、改善のためのネタが詰まった「重要な帳票」といえます。しかし、生産現場の管理監督者は日常の業務に追われ、作業日報を集計できていないのが現状です。そこで、まずは一番身近な作業日報をデジタル化することで、誰が、いつ、どの設備で、どの品番を、いくつ、何時から何時まで生産したかを「データ」としてリアルタイムで集計することから始めました。



**2 難しいシステムを
導入する必要はない**

難しいシステムを導入するのではなく、普段使っているエクセルやバーコードを組み合わせるだけで、現状を大きく変えることなく作業日報のペーパーレス化を進めることができます。一度にあれもこれも導入するのではなく、身近にある小さなことから実績を積んでいくことを心がけています。DXを進めていくとこれまでの「企業の文化」を少しづつ変えることになります。まずは「現場の中心人物」に導入の目的や使いやすさを事前に説明し、理解してもらうことから進めました。

**3 まるで
未来の工場みたい**

身近なことから少しづつデジタル化を進め、今ではビジュアル面にも遊び心を加えた20ほどのシステムが常時稼働し、改善活動を継続しています。一人一台タブレットを持ち、モニターも見ながらの作業は若い世代にとって魅力的に映るようで、「まるで未来の工場のようだ」と採用希望者が増えています。タブレットは監視するのではなく、作業の補助をするのが目的です。まるで2人で作業をしているかのような安心感があります。

従業員側のメリット

システムがサポートしてくれることで、**安心感**をもって作業ができる



会社側のメリット

従業員の**改善意識**が高まることで
コスト意識が身につく

生産性の向上だけでなく、
従業員満足度が高まることで、
採用希望者の増加や**退職者の減少**につながる

＜これからDXの取組をされる方へのメッセージ＞

「やってみなはれ・DX」、経営者のこの一言で、これまでなかなか進まなかった製造現場の改善が大きく進みます。企业文化が変わり、改善活動の集団となって企業価値が高まっていきます。

大きなシステムをいきなり導入するのではなく、まずは手ごろなところから始めてみてはどうでしょうか。

PROFILE



三幸電機株式会社

業種 電気機械器具製造業

所在地 三重工場：いなべ市北勢町
京ヶ野新田568-5

無料のデジタルツールで簡単に農地を「見える化」

農家の高齢化と離農によって、なじみのない農地を預かることも増えました。生産規模が拡大していくなかで、デジタルツールを使って農地の管理業務や農業経営の効率化を進めています。

**作業場所とその日にする作業を
「見える化」して共有**

**農地の管理業務を効率化し、
より良い作物づくりに注力**

＜DXに取り組んだきっかけ＞

就農した2016年頃は、農地の管理がまだまだおおざっぱな状況でした。前職の製造業で得たノウハウを農業に生かしていくうと思いつい、農業も基本的には製造業なので、品質管理などの継続的な業務改善の方法であるPDCAのサイクルは一緒という観点から、デジタルツールの導入を進めています。

株式会社つじ農園 代表取締役 辻 武史さん

**1 どこに何が植えられているかを
把握することが大切**

7品種の米を栽培していて、有機栽培も行っているので、肥料や農薬を間違えないように、どこに何が植えられているかを把握しておくことがとても大切です。デジタル化開始当初は無料の地図表示ソフトを使って農地の「見える化」を進めました。区画された農地に「1」、「2」…のように番号を付けて色分けし、何が植えられているか、どこまで作業が進んでいるのかが分かるようになっています。このデータをチャットツールで作業者に送れば、わざわざ会って作業指示をする必要はありません。作業終了後は日報に作業記録を入力することで、データとして情報が溜まっていきます。

**2 DXの
いいところ**

農地を「見える化」すれば、例えば、津市以外など遠方で土地を預かったとしても、津市にいながら田んぼの状況が分かります。どのように事業を拡大していくか想像がふくらみますし、考え方も柔軟になることがDXのいいところだと思います。当社ではドローンを使った農地の生育解析なども行っており、農業のDXを広く発信することで、若い世代の方に「こんな農家ならやってみたい」と思ってもらえると嬉しいです。



**3 農業にふれていただく
接点に**

自分の食べるものがどのようにできているのか知りたいという、若い世代が増えていますが、都会の方などは農家との接点があまりないのが現状です。繁忙期には人手が必要になるため、副業（アルバイト感覚）でこのような方に来ていただき、農業に触れていただく接点になれるといいなと思っています。そんな時にも、農地が「見える化」されていれば、どこでどんな作業をするのか事前に、簡単に共有することができます。

従業員側のメリット

口頭での指示ではなく文字データで何をするべきか確認できるので、
作業ミスが起こりにくい

初めて作業にいく場所でも
迷わない



会社側のメリット

管理業務を効率化することで
より良い作物づくりに注力できる

人材の受け入れ体制を構築することで、
地域の農業活性化につながる

＜これからDXの取組をされる方へのメッセージ＞

何のためにDXに取り組むのかという「目的」を明確にすれば、数多くある無料のデジタルツールを使うだけでも、さまざまなDXを実現できると思います。
目的に合わせて、簡単にできることから取り組んでみてはどうでしょうか。

PROFILE



株式会社 つじ農園

業種 農業

所在地 津市大里睦合町 1211

創業当初から完全テレワーク

デジタルツールを活用してテレワークでの働き方を実現している株式会社Eプレゼンス。子育て中の女性も含め、女性が活躍する場を生み出すことで多様な働き方を実現し、キャリア形成や人材確保につなげています。

子育て中に キャリアが磨ける 三重県に

＜DXに取り組んだきっかけ＞

子供が学校から帰宅した時に、「おかえり」と言いたかったからです。自宅で親が働き、子どもにその姿を見せられる環境は、親子関係や子供の成長において、とても大切だと考えています。

株式会社 E プrezens 代表取締役 川北 瞳子さん

1 様々なデジタルツールを活用してスムーズに業務を遂行

ビジネスチャットを導入しており、そこから始業時は「今日の予定」を、終業時には「今日の仕事内容」を投稿します。また、業務全般は「スプレッドシート」で、データはクラウドで管理されており、各自で共有しながら仕事を進めています。ただ、周りに社員が誰もいない環境なので、電話やWeb会議システムを活用する等、コミュニケーションには気を付けています。また、月1回、「ランチ会」を開いて、関係性を深めています。



2 多様な働き方を実現し、キャリア形成や人材確保につなげる

何かやりたいと思っていても、何をしていいか分からない、できないという女性が、実はたくさんいるということを知りました。「子育て中にキャリアが磨ける三重県に」をミッションとして、そういう女性がキャリアを積み、フリーランスになったり、起業したりできる環境を整えられたらと思っています。弊社には、子育て中の社員や、子どもが学校に行っている間だけパートとして務めている女性社員も在籍しています。「在宅で仕事ができるから」と応募してくれる方が多く、柔軟に働ける職場環境は人材の確保において大きなメリットになっています。

3 <社員の声> 数多くのデジタルツールに触れる機会をもらいました

入社前は、10年ほどフリーランスとして自宅で仕事をしていたので、働く環境を変えなくていいことは魅力的でした。入社当初は皆さんが様々なデジタルツールを使いこなしていることに驚きましたが、多くのデジタルツールに触れられたことで、今では顧客に使い方を教えられるまでになりました。顧客からは「業務がスムーズになった」といった声をいただくことが増えてとてもうれしいです。私自身も、子育てる中で、自宅に母親がいて働く姿を子どもに見せられたことは、子供の成長にいい影響があったと思っています。

ディレクター 中谷 忍さん

従業員側のメリット

子育てと仕事の両立ができる

デジタルツールのスキルが高まり、キャリア形成につながる

会社側のメリット

多様な働き方を実現することで、社員のキャリア形成、人材の発掘・確保につながる



くこれからDXの取組をされる方へのメッセージ＞

いきなり大きな取組を始めようとするのは難しいと思います。今の業務の中でデジタル化できそうなものを自分たちで考え、難しい時は専門家にも相談しながら、業務を小さく分け、少しづつ進めていくことをお勧めします。

PROFILE

株式会社Eプレゼンス

E-PRESENCE

あなたの会社を「有名」にします。

業種 サービス業

所在地 四日市市栄町1番1号

県立高等学校入学願書のデジタル化

令和5年度三重県立高等学校入学者選抜から、これまで、紙で行っていた出願を「Web出願システム」に変更。パソコンやスマートフォンから24時間手続きが可能になり、志願者にとって便利になっただけでなく、中学校・高等学校側の入試業務の効率化にもつながりました。

全国で2例目となる 「先進的な取組」

入力漏れの確認や修正を 簡単にできる

〈DXに取り組んだきっかけ〉

以前より、学校側から「出願をデジタル化してほしい」という要望がありましたが、セキュリティ等の課題もあり、なかなか進められていない状況でした。「三重県電子申請・届出システム」が新システムに移行するタイミングで、デジタル社会推進局から入学者選抜で活用できるのではないかと提案があり、セキュリティもしっかりとしていることから取組を進めることにしました。

三重県教育委員会事務局 高校教育課キャリア教育班 指導主事 水谷 紀子さん

1 紙での出願を
デジタル化することで、
生徒も学校も負担が減りました

2 いざ始めてみると
想定していないことも

3 先がけとなる
モデルに

県立高校の学科名は高校によって異なっていて、入学願書を書き間違えると初めから書き直しなってしまいます。中学校は入学願書の書き方の指導にとても苦労していましたし、高校は中学校から提出される情報を手入力でパソコンに打ち込んでおり、作業が長時間かかることもあります。デジタル化することで、パソコンやスマートフォンから手続きが可能となり、出願者は入力漏れの確認や修正が簡単にできますし、高校側も一からデータを入力する手間が省け、双方の負担を大きく減らすことができます。

システムの開始にあたっては、志願者、中学校、高校向けのマニュアルを作成し、高校職員向けの説明会を行いました。その際は「業務の効率化につながる」など前向きな声を多数いただきました。ところが、市町ごとにネット環境の制限が違っていたため、各学校に配備されている一人一台パソコンからシステムにアクセスできないところがあったり、スマートフォンの機種によっては使えない場合があるなど、いざ始めてみると想定していないことも出てきました。現場の要望も聞きながら、より使いやすいものに改善していきたいと思います。

県立高校の「Web出願システム」は、都道府県の取組としては全国で2例目となります。三重県と同じ「電子申請・届出システム」を運用している都道府県にとって先がけとなるモデルとして、無事にスタートできたことは入試におけるDXの第一歩になったと思います。まだ電子納付に対応できていませんので、この点についても取り組んでいきたいと思います。



出願者側のメリット

書きによる書類作成の手間が減る

入力漏れの確認や修正を簡単にできる

学校側のメリット

願書等のデータ入力・
管理業務の負担を大幅に軽減

空いた時間を
別の業務に充てられる



三重県教育委員会

業種 公社・官庁

所在地 津市広明町13番地

〈これからDXの取組をされる方へのメッセージ〉

新しいシステムを導入する際には、準備期間だけでなく、試験期間も十分に取っておくことが大切です。その期間で浮き彫りになる課題を修正しながら本格的なスタートを迎えることが出来れば、スムーズにDXを進められると思います。

「書かないワンストップ窓口」の導入

引越し・結婚・出産などのライフイベントに伴って発生する各種手続きについて、職員が必要なことを聞き取りながら申請書の作成をサポートします。来庁された方は申請書の内容を確認して署名するだけで、希望する手続きが完了します。

書かない、待たない、回らない 市民の窓口手続きの負担が軽減 職員の窓口業務負担も軽減

＜DXに取り組んだきっかけ＞

桑名市と他の市町の窓口の仕組みを比べてみると、桑名市の窓口業務はまだまだ業務改善の余地がある、「今が変わるチャンス」だと考え、取り組みました。

桑名市役所 戸籍・住民登録課 小田 祐毅さん

1 「新しい窓口サービス」を実現するための組織体制に

今まで他の課が担当していた各種手続きをワンストップで受付する仕組みをつくるために、全戸的な組織を新設し、取組を進めました。申請書の記載台の撤去、案内看板のつくり替えや、新しいシステムに順応するために執務室のレイアウト変更も必要でした。約9ヶ月の期間をかけて、市民の方にはわかりやすい導線を、職員にとってスムーズな業務遂行を可能にする環境をつくっていきました。



2 「スマートな手続き」は市民・行政ともに有益

これまで各課の窓口で手続きが必要でしたが、現在は、戸籍・住民登録課の窓口で受付し、市民一人ひとりの住民情報と照らし合わせて手続きを行います。職員が必要なことを聞き取りますので、書き方に困ったり、何度も同じ項目を書いたりする必要がありません。いくつかの窓口を回り、待たされることが無くなるので、滞在時間が短縮されます。今回導入した窓口支援システムは、引越し・結婚・出産などのライフイベントごとに必要な手続きをリストアップしてくれるので、「案内もれ」もなくなります。また、窓口業務を集約することで、これまで窓口業務にかかっていた職員が相談業務など、他の業務に注力することができるようになりました。

3 信頼感や安心感につながる市民とのコミュニケーション

市民の方とのやりとりは、今まで「この箇所に記入してください」など事務的な会話が多かったですが、新しいシステムの導入後は、生活にまつわるさまざまな会話をしながら手続きを進めるので、市民の方とコミュニケーションを取る機会が増えました。市民の方からは「今後の手続きの不安がなくなりました」などの声もいただいています。これからさらにサービスを充実させることで、市民の方に気持ちよく帰ってもらえるような窓口にしていきたいです。



市民側のメリット

- 複数の窓口を回らなくても 1 力所で完結する
- 様々な申請書を「書く手間」が省ける
- 「窓口滞在時間」が短縮される

市役所側のメリット

- システムの自動判定により「案内もれ」を防止できる
- 窓口業務を集約することで業務の効率化が図られ、他の業務に注力することができる
- 市民の方とコミュニケーションを取る機会が増える

＜これからDXの取組をされる方へのメッセージ＞

新しい取組を始める際、全員が同じ方向を向いて進められるることは少ないと思います。一人でも二人でも賛同者がいれば、始められることは必ずあるので、まずは取り組んでほしいです。取組を進めると、賛同者も増えてくると思います。

PROFILE



桑名市役所
(戸籍・住民登録課)

業種 公社・官庁

所在地 桑名市中央町2丁目37番地



みえDXセンター

相談受付・課題解決に取り組んでいます！

◀ DXでなにができるか、考えてみませんか ▶

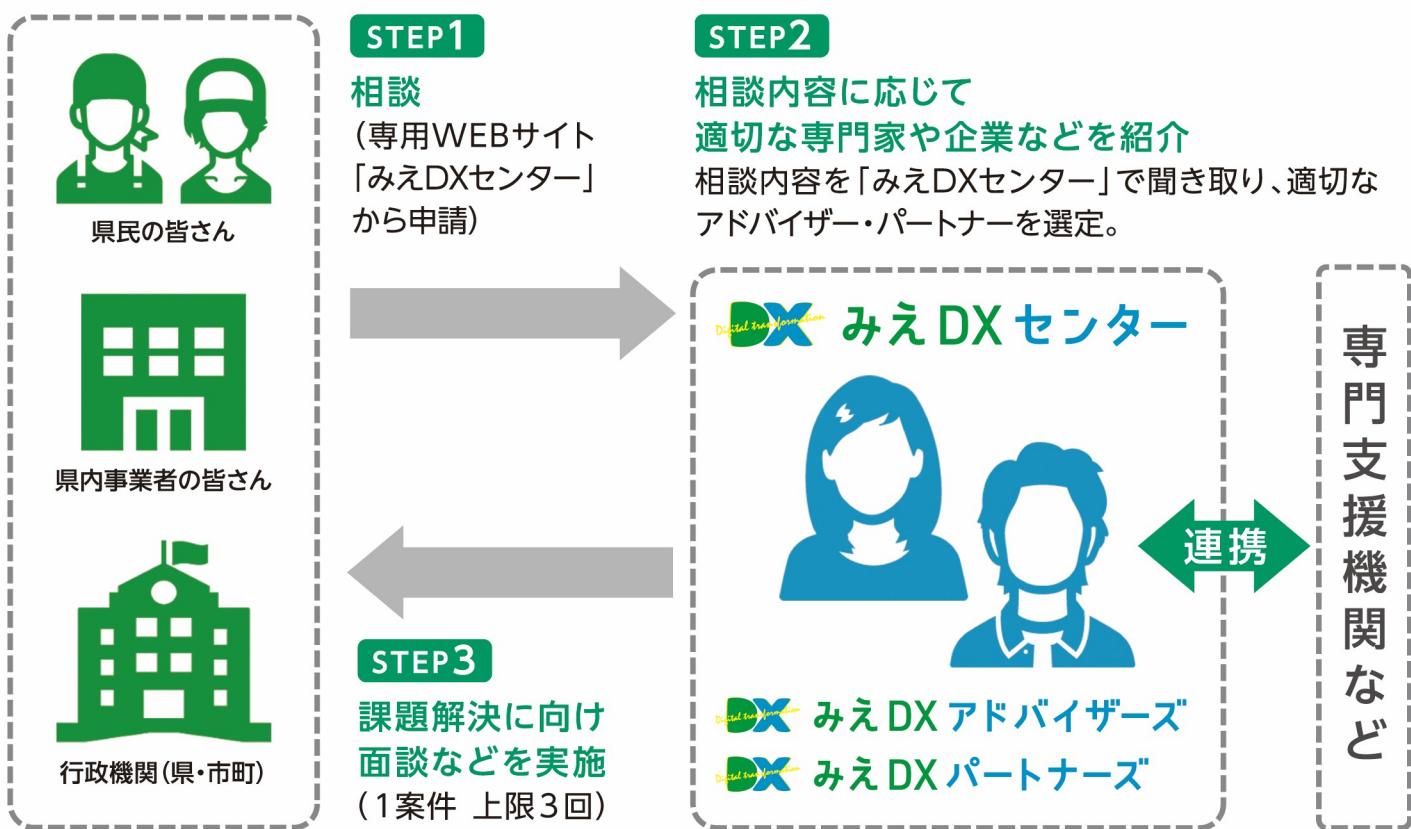
DXってなに?
どうして必要なの?

DXって
何から始めれば
いいんだろう…

課題を改善
したいけど、DXで
なにができる?

みえDXセンターでは、県民の皆さんや県内事業者、行政機関（市町・県）からのご相談に対し、県内外のDXを牽引する専門家（みえDXアドバイザーズ）や企業（みえDXパートナーズ）、専門支援機関と連携して課題解決に向けて支援いたします!!

DXに関するお悩みをお持ちの方は、お気軽にご相談ください!!



DXに関する困りごとがありましたら、みえDXセンターを積極的にご活用ください。

相談は予約制で、専用WEBサイトから随時受け付けています。

三重県総務部デジタル推進局デジタル戦略企画課

E-Mail:dxcenter@pref.mie.lg.jp TEL:059-224-3086

みえDXセンター





みえ DX センター

三重県総務部デジタル推進局デジタル戦略企画課
E-Mail: dxcenter@pref.mie.lg.jp TEL: 059-224-3086

制作:三重県 2024年3月